

**保温資材と遮光資材を用いた「さえみどり」の一番茶における収量・品質向上被覆技術**

春整枝後に保温資材を約 2 ヶ月間トンネル被覆し、遮光資材を一番茶摘採前 5 日～10 日重ね掛けを行うことで、露地より摘採時期が 5 日程度早まり、収量・品質の高い一番茶が得られる。

農業研究センター茶業研究所（担当者：奥田裕二）

**研究のねらい**

広く栽培されている「やぶきた」に代わり、付加価値の高い品種の導入を進めることは重要な課題である。「さえみどり」は良質な早生品種であることから、「やぶきた」に代わる有望品種として普及が期待されているが、一番茶の被覆技術については十分な検討が行われていない。そこで、早生品種として安定した収量の確保および摘採時期の早進化を図りながら、品質向上に資する「さえみどり」の被覆技術を確立する。

**研究の成果**

1. 保温資材を春整枝後から一番茶摘採まで約 2 ヶ月間のトンネル掛け被覆を行うことで、摘採時期を露地より 5 日程度早めることができ、収量も多くなる（表 1）。
2. トンネル掛けした保温資材の上に、遮光資材を一番茶摘採前 5 日～10 日の二重被覆を行うことで全窒素、遊離アミノ酸およびテアニンの含有率は露地より高くなる（表 2）。
3. 保温資材をトンネル掛け被覆したものに、遮光資材を直接重ねて 5 日～10 日二重被覆したものが、荒茶品質における官能審査の評価は高く、価格評価においても摘採時期が早まることで高くなる（表 3）。

**普及上の留意点**

1. 保温資材として「ベタロン（透明，遮光率約 10%）」、遮光資材として「バロンスクリーン（黒，遮光率 75%）」を使用した。
2. トンネル掛けによる二重被覆は、保温資材の上に遮光資材を直接被覆した。

表 1. 一番茶摘採日および生葉収量

試験区	遮光資材		摘採時期 (日)	一番茶収量 (%)	出開度 (%)
	開始時期	被覆期間			
保温資材+遮光資材5日	3葉期	中5日	4/27 ± 3	129	75
保温資材+遮光資材10日	2.5葉期	中10日	4/27 ± 3	126	83
保温資材+遮光資材15日	2葉期	中15日	4/27 ± 3	109	89
保温資材	—	—	4/27 ± 3	141	73
遮光資材10日	3葉期	中10日	5/2 ± 2	82	72
露地	—	—	5/2 ± 2	100	54

注 1) 値は2010~2011の各年度2反復の平均値

注 2) 保温資材は春整枝後の3月1日より被覆

注 3) 一番茶収量は18㎡の全刈り収量から算出し、露地を100とした場合の指数

表 2. 一番茶における荒茶中成分含量

試験区	全窒素 (%)	遊離アミノ酸 (%)	粗繊維 (%)	テアニン (%)	タンニン (%)
保温資材+遮光資材5日	6.5 ± 0.20	4.6 ± 0.10	16.8 ± 0.85	2.4 ± 0.10	12.8 ± 1.10
保温資材+遮光資材10日	6.7 ± 0.10	4.8 ± 0.15	15.9 ± 0.15	2.5 ± 0.10	12.3 ± 0.95
保温資材+遮光資材15日	6.9 ± 0.05	4.9 ± 0.40	15.5 ± 0.05	2.6 ± 0.20	11.7 ± 0.95
保温資材	6.0 ± 0.05	4.1 ± 0.20	17.7 ± 0.20	2.1 ± 0.10	13.5 ± 1.10
遮光資材10日	7.0 ± 0.20	5.3 ± 0.05	14.7 ± 0.05	2.8 ± 0.10	11.5 ± 0.80
露地	6.2 ± 0.05	4.3 ± 0.10	16.3 ± 0.10	2.3 ± 0.15	14.0 ± 0.80

注 1) 値は2010~2011の各年度4反復の平均値±標準偏差

注 2) サンプルは小型製茶機 (2kg製茶機) で製茶した荒茶を使用

注 3) 分析はS社製近赤外線分析計 (GT-8) を使用

表 3. 荒茶品質評価

試験区	官能審査						内質合計	総計	価格評価 (%)
	形状	色沢	香氣	水色	滋味	内質合計			
保温資材+遮光資材5日	10	10	8 かぶせ香	8 鮮緑	10	26	46	160	
保温資材+遮光資材10日	10	10	8 かぶせ香	9 鮮緑	10	27	47	153	
保温資材+遮光資材15日	10	10	9 かぶせ香	10 鮮緑	9	28	48	160	
保温資材	8	9	6	7	7 苦渋味	20	37	133	
遮光資材10日	10	10	10 かぶせ香	8 濃緑	10	28	48	133	
露地	9	9	6	6 黄色み	8 苦味	20	38	100	

注 1) 製茶は少量製茶機 (2kg製茶機) で行った

注 2) 官能審査は8名の合議制による最高点を10点とし、価格評価とは別日に行った (2011/7/27)

注 3) 価格評価はJA熊本経済連2名により、2011/5/1に保温資材使用区を、5/5に遮光資材10日および露地を評価

注 4) 価格評価は露地を100としたときの指数